

いつもありがとうございます。きしゅう会計の名倉です。先日経過報告させて頂きました、娘の受験ですが、左のイラストの通り、サクラ咲きました!(^^)!

子供のこことって自分のことと同じですね。朝から合格発表を見るまでどきどきが止まりませんでした。娘と嫁は学校まで発表を見に行くといっただけでしたが、さすがに繁忙期のため、僕は事務所で仕事。ただ、9時50分頃から、ネットで神戸大学の合格発表ページをあけて「10時以降ここをクリックしてください」の文字と睨めっこしていました。

そして娘の受験番号を見つけて大きく歓喜! 「親というのは子どものことで一喜一憂する生き物なのだ」そう思うと子どもの頃、自分の親に如何に心配ばかりさせて来たのだらうと反省の念もふつふつと沸いて、親になって子どもが大きくなる過程で気づくことって多いものだと思認識した次第です。今頃、遅いのですが、「お父さんお母さん、その節は心配ばかりお掛けしてすみませんでした_(._.)_」(実家もクライアントでこれ送ってるんです。読んでくれてるみたいです)あと、20年くらいたったら今度は子どもを育てている娘や息子が僕に同じようにいつてくれるかな(笑)

さて、これで娘はこの4月から旅立ちます。今まで和歌山の田舎、電車通学もなく歩きと自転車の半径500mの行動範囲 & 上げ膳据え膳の世界から、都会での一人暮らしという、「カフカの変身」並みの大変



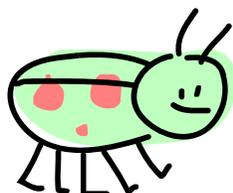
化です(笑)。多少というか多くの不安があるようですが、そんなものは3ヶ月もあれば慣れるでしょう。だって、カフカのように自分が虫になるのではなく、自分は変わらず周りが変わるだけなので。

しっかり、これからの4年間で自分が今後、生きていく中で、一番時間を掛けたいものを見つけ、その準備をして欲しいですね。そして、もちろん垢抜けて、ちゃんと父親とも人として付き合えるようになってもらわないとね(笑)。

さて、このように書いていると順調な受験だったように聞こえますが、実は結構やらかしてるんです。また、下宿探しも今まで知らなかったノウハウも得ましたので、その辺りを書いてみたいと思います。まずは、受験のドタバタ話から。

その① センター試験での忘れ物

筆箱を忘れたそうです。オーマイゴット(+_+) 受験の前日なんて、やることと言えば、忘れ物のチェックくらいやろに、何故に筆箱を忘れるかな(.-;) 前の席の子にヘルプのお願い。「それは大変! これを使って!」とシャーペンと消しゴムを貸してくれたそうです。へビー級のありがとう! を僕からも伝えたいですが、どこの誰だかわかりません。でも大丈夫。先月号に書きましたが、親切の和が広がるように、次は娘や僕が同じ境遇の人に同じようにすればいいのです。ただ、受験会場で筆記用具忘れる人とはなかなか遭遇できないでかな(^_^)でも違った形でその子の優しさ、親切の和を広げていきたいと思ひます!



その② 2次試験での忘れ物

「どうしよう、、、時計忘れた」試験開始20分前。突然僕の携帯に娘からの電話。しかも、あれあれ、泣きながらの電話。ペース配分が分からない以前にこれだけ動揺していればアウトでしょ。「大丈夫。校門のところで待って時計届ける。絶対間に合う。」と前日家族で大阪の実家に泊まって、受験会場まで車で送り、何気に嫁と三宮のマグドで朝食を取っていた時のこと。

(予定では繁忙期なので嫁を残して、そのまま僕は御坊に帰るつもりになっていたのですが、、、) 慌ててマグドを後にして、車で一路受験会場へ逆戻り。カーナビを設定。

ジャストタイムの表示。心配する嫁に「大丈夫、間に合う。あの子はそこまで運のない子じゃない」と声を掛けながら飛ばした2号線、六甲の上り坂。遠く校門前に不安げに立つ娘を発見!

5分前! OK! なんとかセーフ! 僕の時計を手にして、教室に走って戻る娘の後ろ姿を見ながら、「そやけど、なんで今度は時計やねん!」って

我に戻りました。ほんとに何やってんだか(.-;) ただ、筆箱に時計と立て続けに長島茂雄級のポカをやらかす娘に、嫁ではない自分のDNAを感じてほっとする僕でもありました。娘には悪いですけどね(笑) そんなこんなのドタバタがあっても、ここまで行き着けたことに感謝です。学校の先生、バイオリンの先生、娘の友達、それから勿論嫁にも。娘と国交のない僕はほとんど何の貢献もありませんから、、、(.-;)

あつ、僕の時計は最後に貢献しましたp(^_^)



最後に違うジャンルのドタバタ話です。

「合否はまだ分からなくても前もって押さえておかないと合格していざ探したらドタバタ大変らしい」と嫁が言い出したので、とりあえず不動産屋へ。最初に入った駅前のお店。「そうですね、このタイミングちょっと遅いですね。でも



大丈夫です。まだ遅い人もありますよ」といくつか案内してもらい、まあ可もなく不可もないけど、もう物件少ないんじゃないかな、押さえてこかなと思案していると、「そうしておいた方がいいですよ。ただまったく内金なしで予約はできませんので、キャンセルの場合、家賃1ヵ月分は捨てになります」とのこと。そうなんですか? 週末まで考えさせてと、ひとまず帰ったところに、また嫁が新情報入手。「大学生協の不動産部がいいらしい、そこでは合格発表後でも物件は十分あるし、前もって押さえてキャンセルしてもお金掛らないらしいよ」と180度違う内容。はてさて真偽は如何にと、大学生協に行き、そこで話を聞かせてもらったところ、「毎年、合格発表後予約されていた物件の約4割がキャンセルになりますので、発表後で十分です。もちろん前もって気に入った物件があれば予約して頂いてもいいし、不合格の場合、キャンセル料は掛りませ

ん。」とのこと。皆さんも大学生協に不動産部があれば、そっちをお奨めします。情報はちゃんと取らないといけませんね。今はインターネットで手軽に取れますから、高価な一過性のものを購入する際には、当たり前ですが気軽に売り手からの情報を鵜呑みにしてはいけませんね(^_^)



喜多川泰氏をご存知ですか？

偶然見つけた彼の著書「君と会えたから…」



もし「明日」が無期にあるわけでもないとしても、今と同じような今日を生きますか？

これがいいんですね。ストーリー展開の自己啓発本です。大阪弁を話す象が出てくる話とはちょっと違いますが面白い。レンディードラマ調です。(ん、レンディードラマってもしかして死語 ^_^;) 自分が生きることの意味、

何故勉強すべきなのか、お金の本当の意味、仕事とどのように向き合うか等が説得力ありで、分かりやすくまとまっています。ストーリー展開はちょっとシロ口で結末予想は概ね90%は当たると思いますが、それでもいい。この著書の中に出てくる2つのライフリスト。ひとつめが自分の欲しいものリスト、うーん普通、「高級車がほしい」「有名人になりたい」「人から尊敬されたい」なんて書きちゃうかな^_^。ふたつめが人にしてあげたいことリスト。あんまり書くとこの本を買う人が減っても申し訳ないので、この部分はこの辺で止めますが、このふたつのリストの関係って、ん、もうお分かりですよ。

実際自分にできることってどっち？ 急がば回れというか、それしかできないかな(^_^)

お金の意味についても、いい感じでまとまっています。誰かにものをもらおうと「ありがとう！」といいますよね。それが例えば、「パンをもらった時のありがとう！」と、「自動車もらった時のありがとう！」は大きさが違わず、それがそのものの価値であり、その品物を提供してくれた人全員に、

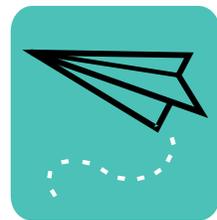


「ありがとう！」を言えないから、その代わりにお金を払っている。そして反対の立場から見ると、「たくさんのありがとう」を貰えるにはどうすればいいかを考えて行動する。それがいい仕事をするコツ。そして、ひとつめのライフリストにあげたものを手に入れる秘訣。あーあ、喜多川先生ごめんなさい。いっぱい書いちゃった(^_^)でもこれだけじゃありません。「プロ野球選手になりたい」って夢を持っている人が、例えなれなくても(ほとんどの人はなれないですよ)、夢をあきらめない生き方ができるってお話も Good です。職業は「乗り物」なんです、、、ご関心のある方は是非お読みください！



喜多川泰氏はもともと学習塾の経営者で授業を始める前にいつも「夢を持つことの大切さ」の説法をしていたそうです、すると生徒から「先生のお話、とてもいいので本にすればいいのに」と言われて作家デビュー。「賢者の書」が代表作で(未読、でも発注済み)、また昨年は『「また、必ず会おう」と誰もが行った。』が映画になったそうです。そろそろ有名になるのかな。

また、試験が終わってから、当たり前のことですが、「時計ありがとう」と言って来た娘。国交正常化も近そうです(笑) そんな娘にこの「君と会えたから…」を旅立ちの時に贈るつもりです。受験の終了はスタート地点。相撲入門でいうと、身長と体重があるだけです。ここから、てっぼううって、しこふんで鍛えてと。夢を見つけて、夢に向かって生きてほしいです。そうそう、もちろん、まだ走り出せていない息子にも贈るために2冊用意しました(^_^)v



Facebook で見つけた伝えたい話 9

「情けは人のためならず」

東日本大震災では、世界中から驚くほど多額の義捐金(ぎえんきん)、支援が日本に届いた。「日本を救え」「私たちは日本とともにいる」といったメッセージも多かった。もちろん地震が世界最大級で被害が大きかったこともあるが、そもそも日本がこれまで世界有数の支援大国であったからに他ならない。そうした日本への恩に、世界中がこぞって報いたのである。1999年9月21日、台湾中部をマグニチュード7.7の大地震が襲った。最初に駆けつけたのは日本の救援隊だった。それに続く民間ボランティアと学生ボランティアがぞくぞく被災現場に到着した。テレビを通じてみた日本の救援隊に対して、台湾の人びとが最も感動したのは、日本救援隊がハイテク機器を駆使して瓦礫の下から生存者を探し出し、昼夜を問わず救援活動にいそむ一方、運悪く助からなかった遺体の前では整列して頭を垂れて黙祷する一幕である。



2008年に中国で起きた四川大地震の被災地でも、日本救援隊の死者を悼む現場の映像は話題となり、感動を与えた。それは漢文化にはない習慣である。たいてい、どの国も出入国税関の役人といえば傲岸不遜なものだが、日本の地震救援隊が台湾の桃園空港を離れたときは例外だった。日本救援隊の姿が現れると、税関の職員全員が総立ちとなって深々と最敬礼し、空港でごったがえしていた出入国客全員が拍手で見送った。その光景をロビーで見て感涙に咽ぶ人もいたのだ。東日本大震災では、台湾からは 157 億円もの義捐金



が集まった。米国が約100億円であることと比較すると米国の10分の1以下の人口の台湾でこれほどの額になったのは、もともと親日派が多いこともあるが、やはり台湾中部震災での日本人の活動が記憶に鮮明に残っているからだ。また、1890年には、エルツールル号の遭難事件があった。日本を訪れたトルコの軍艦エルツールル号が、和歌山県沖で遭難し、500名以上の犠牲者を出した事件だ。近くの大島村に流れついた生存者たちを、住民は総出で救援し、生存者を献身的に介抱し、自分たちの少ない食料をこぞって提供し、69名を助けることができた。その100年後の1985年のイラン・イラク戦争の時、イラクはイラン上空の航空機に対する期限を定めた無差別攻撃宣言を行った。イラン国内に取り残された日本人は215名いたが、自衛隊は海外派遣不可という制限があり、日本航空は安全の保証がないため、臨時便を出せなかった。このとき、イランの日本大使がトルコ大使に窮状を訴えたところ、「ただちに本国に求め、救援機を派遣させましょう。エルツールル号遭難の際に受けたご恩は、トルコ人なら誰もが知っています。恩返しをさせていただきます」と答え、トルコ航空機によって日本人全員が救出されたのである。 出典元:(日本人はなぜ世界から尊敬され続けるのか 徳間書店) ~コミュニティ涙が止まらない~より引用 <名倉コメント> 出典元の本は未読です。でも前にも言いましたが、日本には誇れる歴史があるんです。和歌山にも、もっと国民が自信をもって生きていけるように国を挙げてしなくちゃいけませんよね。言われっぱなしは全然よくないですよ(^_^)

